

2015年8月期 上期業績 および通期見通し

岡崎 健

株式会社ファーストリテイリング
グループ上席執行役員 CFO

1

CFOの岡崎です。
私から、2015年8月期上期の業績、および
通期の業績見通しについてご説明いたします。

I. 上期決算概要	P3	～	P17
II. 2015年8月期 通期業績予想	P18	～	P21
III. 参考資料	P22	～	P25

【業績開示について】

2014年8月期末より国際会計基準(IFRS)を適用いたしました。

本資料上の数字については、特に断りのない限り、すべてIFRSベースで記載しております。

【資料文中のグループ事業の表示について】

各グループ事業の構成は、以下のとおりです。

国内ユニクロ事業： 国内ユニクロ事業の数値が表示されています。

海外ユニクロ事業： 海外で展開するユニクロ事業が含まれています。

グローバルブランド事業： ジューシー事業、セオリー事業、コントワー・デ・コトニエ事業、
プリンセス タム・タム事業、J Brand事業が含まれています。

【将来予測に関するご注意】

本資料に掲載されている業績予想、計画、目標数値などのうち、歴史的事実でないものは、作成時点で入手可能な情報に基づき作成した将来情報です。実際の業績は、経済環境、市場の需要・価格競争に対する対応、為替などの変動により、この業績予想、計画、目標数値と大きく異なる場合があります。

【連結】2015年8月期 上期実績

計画を上回る増収増益を達成

	2014年8月期 上期実績	2015年8月期 上期		
		直近予想 (1/8時点)	実績	前年同期比
売上収益 (売上比)	7,643 100.0%	8,900 100.0%	9,496 100.0%	+24.2%
売上総利益 (売上比)	3,774 49.4%	- -	4,795 50.5%	+27.0% +1.1p
販管費 (売上比)	2,725 35.7%	- -	3,363 35.4%	+23.4% ▲0.3p
事業利益 (売上比)	1,049 13.7%	- -	1,431 15.1%	+36.4% +1.4p
その他収益・費用 (売上比)	20 0.3%	- -	68 0.7%	+236.1% +0.4p
営業利益 (売上比)	1,070 14.0%	1,200 13.5%	1,500 15.8%	+40.2% +1.8p
税引前四半期利益 (売上比)	1,105 14.5%	1,200 13.5%	1,636 17.2%	+48.0% +2.7p
親会社の所有者に帰属する 四半期利益 (売上比)	670 8.8%	670 7.5%	1,047 11.0%	+56.2% +2.2p

単位:億円

注: 事業利益は、売上収益から売上原価、販管費を控除して算出しております。

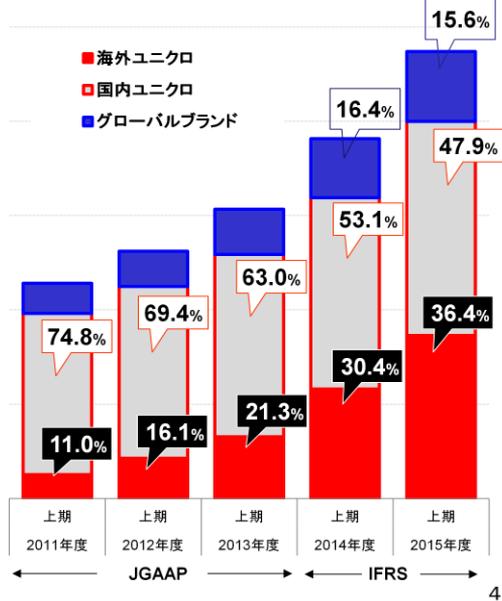
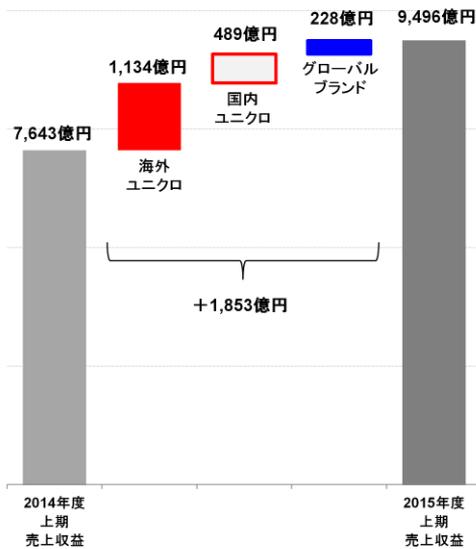
3

2015年8月期 上期の連結業績ですが、
 売上収益は9,496億円、前年同期比24.2%増、
 営業利益は1,500億円、同40.2%増、
 税引前四半期利益は1,636億円、同48.0%増、
 親会社の所有者に帰属する四半期利益は1,047億円、同56.2%増と
 となりました。

【連結】上期 売上収益

売上収益9,496億円、1,853億円の増収
海外ユニクロが1,134億円の増収

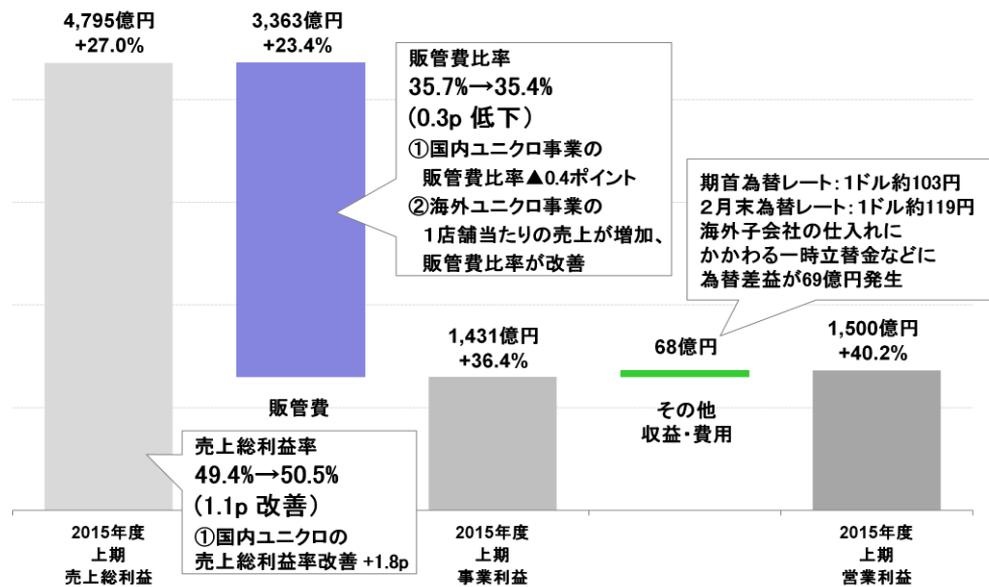
海外ユニクロの売上構成比が36.4%へ拡大



まず、売上収益ですが、9,496億円と前年同期比24.2%増、1,853億円の増収となりました。その内訳としては、海外ユニクロ事業が1,134億円の増収、国内ユニクロ事業が489億円の増収、グローバルブランド事業が228億円の増収となっております。

この結果、海外ユニクロ事業の売上構成比は36.4%と、前年同期比で6.0ポイント拡大し、国内ユニクロ事業の売上構成比が50%を切りました。

【連結】上期 営業利益



注: 事業利益は、売上収益から売上原価、販管費を控除して算出しております。

5

売上総利益は4,795億円と前年同期比27.0%増の増益となりました。なお、売上総利益率は50.5%と、前年同期比1.1ポイント改善いたしました。これは主に、国内ユニクロ事業の売上総利益率が同1.8ポイント改善したためです。

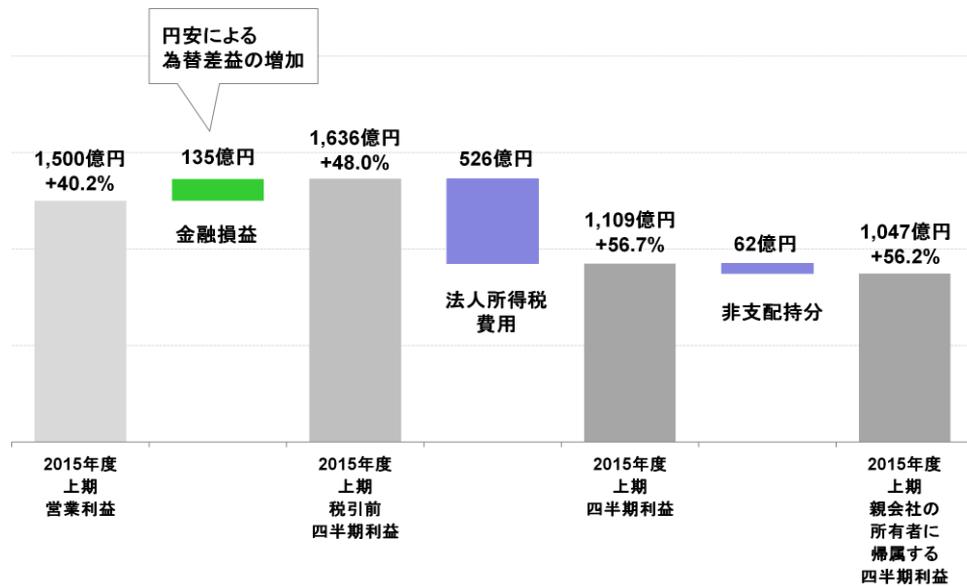
販管費は3,363億円と同23.4%増となりました。売上販管費比率は35.4%と、前年同期比0.3ポイント低下しております。これは主に国内ユニクロ事業で販管費比率が0.4ポイント低下したこと、海外ユニクロ事業の1店舗当たりの売上が増加し、販管費比率が改善したことによります。

売上収益から売上原価、販管費を控除した事業利益は、1,431億円と同36.4%増の増益となりました。

その他収益・費用の合計は68億円と同48億円増加いたしました。これは主に、期首の為替レート、1ドル約103円に比べ、2月末の為替レートが1ドル約119円と円安となったことにより、海外子会社の仕入れにかかわる一時立替金などに為替差益が69億円発生したことによります。

これらの結果、営業利益は1,500億円、同40.2%増の増益となりました。

【連結】上期 親会社の所有者に 帰属する四半期利益



次に、金融損益ですが、為替が円安になったことから、外貨建資産などの換算差額が増え、金融損益はネットで135億円のプラスとなっております。

この結果、税引前四半期利益は1,636億円と同48.0%増、親会社の所有者に帰属する四半期利益は1,047億円、同56.2%増となりました。

【セグメント別】上期実績

		2014年8月期		2015年8月期		単位:億円
		上期実績		上期実績	前年同期比	
国内ユニクロ事業	売上収益	4,055		4,545	+12.1%	
	事業利益	699		886	+26.8%	
	(売上比)	17.2%		19.5%	+2.3p	
	その他収益・費用	18		8	▲54.5%	
	営業利益	717		894	+24.7%	
(売上比)	17.7%		19.7%	+2.0p		
海外ユニクロ事業	売上収益	2,320		3,455	+48.9%	
	事業利益	271		431	+59.0%	
	(売上比)	11.7%		12.5%	+0.8p	
	その他収益・費用	▲8		▲3	-	
	営業利益	262		428	+63.2%	
(売上比)	11.3%		12.4%	+1.1p		
グローバルブランド事業	売上収益	1,253		1,482	+18.3%	
	事業利益	92		123	+33.7%	
	(売上比)	7.4%		8.3%	+0.9p	
	その他収益・費用	2		▲6	-	
	営業利益	95		117	+23.4%	
(売上比)	7.6%		7.9%	+0.3p		

注: 連結業績には上記の他、ファーストリテイリングの業績、連結調整が含まれております。
 国内ユニクロの業績にはグループ間取引が含まれております(売上収益を除く)。
 事業利益は、売上収益から売上原価、販管費を控除して算出しております。

次にセグメント別の業績についてご説明します。

国内ユニクロ事業の売上収益は4,545億円、営業利益は894億円、
 海外ユニクロ事業の売上収益は3,455億円、営業利益は428億円、
 グローバルブランド事業の売上収益は1,482億円、営業利益は117億円と、
 いずれのセグメントでも増収増益を達成いたしました。

計画を上回る増収増益

	2014年8月期	2015年8月期 上期	
	上期実績	実績	前年同期比
売上収益 (売上比)	4,055 100.0%	4,545 100.0%	+12.1%
売上総利益 (売上比)	1,933 47.7%	2,251 49.5%	+16.4% +1.8p
販管費 (売上比)	1,234 30.4%	1,364 30.0%	+10.6% ▲0.4p
事業利益 (売上比)	699 17.2%	886 19.5%	+26.8% +2.3p
その他収益・費用 (売上比)	18 0.4%	8 0.2%	▲54.5% ▲0.2p
営業利益 (売上比)	717 17.7%	894 19.7%	+24.7% +2.0p

単位: 億円

注: 国内ユニクロの業績にはグループ間取引が含まれております(売上収益を除く)。
事業利益は、売上収益から売上原価、販管費を控除して算出しております。

まず、国内ユニクロ事業ですが、売上収益、営業利益ともに計画を上回る増収増益を達成いたしました。

上期 売上収益 4,545億円（前年同期比+12.1%）

- ・既存店売上高：前期比+8.4%（客単価+10.2%、客数 ▲1.6%）
- ・スクラップ&ビルドによる店舗の大型化で1店舗当たりの売上が増加

販売動向

- ・第2四半期は気温が低く推移したことから、ヒートテックエクストラウォーム、ウルトラライトダウン、スウェットといった冬物コア商品の販売が好調
- ・初売りも多くのお客様にご来店いただき、大変な賑わいとなった

客単価

- ・客単価上昇は、インナー部門でヒートテックエクストラウォームの構成比が高まる、アウター部門、ボトムス部門でも比較的単価が高い商品の販売が好調による

直営既存店 前年比	2015年8月期						
	1Q	12月	1月	2月	2Q	上期	3月
売上高	+7.5%	+10.2%	+8.9%	+7.7%	+9.4%	+8.4%	▲3.0%
客数	▲2.2%	▲1.4%	+0.5%	▲3.0%	▲1.1%	▲1.6%	▲10.5%
客単価	+9.9%	+11.7%	+8.4%	+11.1%	+10.6%	+10.2%	+8.4%

2015年2月末 直営店舗数814店舗、前年同期末比▲18店舗
FC店28店舗、同+10店舗

国内ユニクロの売上収益は4,545億円と、前年同期比12.1%の増収となりました。これは主に、既存店売上高が同8.4%の増収となったこと、スクラップ&ビルドによる店舗の大型化で1店舗当たりの売上が増加したことによりです。

既存店売上高8.4%増の内訳は、客単価で10.2%の増加、客数で1.6%の減少となります。

第2四半期は気温が低く推移したことから、ヒートテックエクストラウォーム、ウルトラライトダウン、スウェットといった冬物コア商品の販売が好調に推移いたしました。また、初売りも多くのお客様にご来店いただき、大変な賑わいとなりました。

客単価は10.2%増加いたしました。これは、インナー部門でヒートテックエクストラウォームの構成比が高まったこと、アウター部門でウールアウター、ボトムス部門でジーンズなど、単価が比較的高い商品の販売が好調だったことによりです。

なお、2月末の直営店舗数が814店舗と前年同期末比で18店舗の減少となりました。このうち9店舗は直営店がフランチャイズ店に転換したものです。

3月の既存店売上高は、すでにお知らせしている通り3.0%減となっております。

上期 売上総利益率 49.5% (前年同期比 +1.8p)

前年同期比で改善、計画を若干上回る

- ・第1四半期:前年同期比で改善、計画を上回る
秋冬商品の立ち上がりが早かったこと、冬物コア商品の販売好調
- ・第2四半期:前年同期比で改善、計画を若干下回る
1月の初売りセールで値引き商品に販売が集中

10

次に、国内ユニクロ事業の売上総利益率ですが、49.5%と前年同期比1.8ポイント改善いたしました。これは計画を若干上回る水準となっております。

第1四半期の粗利益率は前年同期比で改善し、計画を上回りました。これは9月初旬に気温が低下したことにより秋冬商品の立ち上がりが早かったこと、ヒートテック、ウルトラライトダウンなど冬物コア商品の販売が好調だったことによります。

第2四半期の粗利益率は、前年同期比では改善しましたが、計画に対して若干下回る結果となりました。これは1月の初売りセールで値引き商品に販売が集中したためです。

上期 売上販管費比率 30.0% (前年同期比 ▲0.4p)

単位: 億円

	2014年8月期 上期		2015年8月期 上期			
	実績	(売上比)	実績	(売上比)	増減	(売上比)
販管費合計	1,234	30.4%	1,364	30.0%	+130	▲0.4p
人件費	362	8.9%	410	9.0%	+47	+0.1p
広告宣伝費	181	4.5%	175	3.9%	▲5	▲0.6p
賃借料	261	6.5%	285	6.3%	+23	▲0.2p
減価償却費	36	0.9%	36	0.8%	+0	▲0.1p
その他経費	391	9.7%	456	10.0%	+64	+0.3p

11

売上販管費比率は30.0%と、前年同期比0.4ポイント低下いたしました。これは、計画に対して、金額ベースではほぼ計画通り、売上比率では若干下回りました。

経費比率の内訳としては、広告宣伝費で0.6ポイント、賃借料で0.2ポイント、減価償却費で0.1ポイント低下している一方で、人件費で0.1ポイント、その他経費で0.3ポイント増加しております。

広告宣伝費比率の低下は、経費の見直しなど計画的に削減しているもので、金額ベースではほぼ計画通りとなっております。

賃借料率の低下は、既存店売上が好調だったことにより、効率が改善されたためです。

人件費比率の上昇は、店舗スタッフの人件費を増やした影響によります。

その他経費比率の上昇は、定番商品を中心に倉庫在庫を増やしたことによる倉庫費増などによるものです。

【海外ユニクロ事業】上期 実績(1)

上期 計画を上回る大幅な増収増益

- ・為替の影響を除いた現地通貨ベースでも計画を上回る
- ・特にグレーターチャイナ、韓国の業績が好調、計画を上回る
- ・欧州事業はほぼ計画通り
- ・米国事業は計画を下回り減益
- ・アジア、米国を中心に83店舗の純増、2月末716店舗

		2014年8月期		2015年8月期		単位: 億円
		上期実績	上期実績	前年同期比	前年同期比	
海外ユニクロ事業	売上収益	2,320	3,455	+48.9%		
	事業利益	271	431	+59.0%		
	(売上比)	11.7%	12.5%	+0.8p		
	その他収益・費用	▲ 8	▲ 3	-		
	営業利益	262	428	+63.2%		
	(売上比)	11.3%	12.4%	+1.1p		

注: 事業利益は、売上収益から売上原価、販管費を控除して算出しております。

12

次に海外ユニクロ事業についてご説明いたします。

売上収益は3,455億円、前年同期比48.9%増、営業利益は428億円、同63.2%増と、計画を上回る大幅な増収増益となりました。なお、為替の影響を除いた現地通貨ベースでも計画を上回る増収増益を達成しております。

特にグレーターチャイナ、韓国の業績が好調で、計画を上回ることができました。欧州事業はほぼ計画通りの業績となっております。米国事業は計画を下回り減益の結果となりました。

この上期では、アジア、米国を中心に、92店舗を出店、9店舗を閉店し、83店舗の純増となりました。海外ユニクロ事業全体の店舗数は2月末で716店舗に達しております。

各エリアの業績トレンド

- ・**グレーターチャイナ**: 計画を上回り、大幅な増収増益
台湾は既存店売上高は2桁増収と好調を維持
中国は冬物コア商品の販売が順調、旧正月商戦も好調で既存店売上高は増収
- ・**韓国**: 既存店売上高2桁増、計画を上回る大幅な増収増益
- ・**東南アジア地区**: ほぼ計画どおりの増収増益
- ・**オーストラリア**: 計画を下回り、減益
3店舗の新規出店による経費増、初めての春夏商売により苦戦、売上が下振れ
- ・**米国**: 売上と粗利益率が計画を下回り、赤字幅が拡大
秋冬商品の立ち上がりが遅れ、既存店売上高は計画を下回り、
新規店舗の売上も計画未達。シーズン末での在庫処分が増加し、粗利益率が低下
店舗数が前年同期末の17店舗に対し、22店舗拡大したことによる経費増
- ・**欧州**: ほぼ計画通りの増収増益
英国、フランスは既存店が増収、利益は計画を上回る。ドイツは計画未達
ロシアは、事業利益で増益も、通貨危機により、営業利益は計画を下回る

次に、各エリアの業績トレンドについてご説明いたします。

中国、香港、台湾といったグレーターチャイナの業績は計画を上回り、大幅な増収増益を達成いたしました。特に台湾は既存店売上高が2桁増収と好調を維持しております。

中国でも、冬物コア商品の販売が順調だったことに加え、旧正月商戦でも好調な売上となったことから既存店売上高は増収となりました。

上期ではグレーターチャイナ全体で48店舗を出店、7店舗を閉店し、2月末の店舗数は415店舗に達しております。

韓国も、計画を上回る大幅な増収増益となりました。既存店売上高は、大幅増収を達成した昨年をさらに上回り、2桁増収となっております。

上期では8店舗を出店、2店舗を閉店し、139店舗まで拡大しております。

シンガポール、マレーシア、タイ、フィリピン、インドネシアといった東南アジア地区は、ほぼ計画どおりの増収増益となりました。上期では16店舗出店し、2月末で95店舗まで拡大しております。

オーストラリア事業は計画を下回り減益となりました。上期に3店舗を新規出店したことによる経費増、南半球で初めての春夏商売だったことから苦戦し、売上が計画を下回ったためです。

米国の業績は、売上と粗利益率が計画を下回ったことにより赤字幅が拡大いたしました。秋冬商品の立ち上がりが遅れ、既存店売上高は計画を下回り、新規店舗の売上も計画未達となっております。この結果、シーズン末での在庫処分が増加し、粗利益率が低下いたしました。また、店舗数が前年同期末の17店舗に対し、22店舗拡大したことによる経費増も収益を圧迫いたしました。

欧州は、ほぼ計画通りの増収増益となりました。英国、フランスは既存店が増収となり、利益は計画を上回りました。ドイツは計画未達、またロシアは、事業利益で増益だったものの、通貨危機による一時的な影響で営業利益は計画を下回りました。

計画通りの増収増益

- ・ジーユー事業：計画を上回る増収増益を達成
 キャンペーン商品のニット、スカート、冬物アウターの販売が好調
 ジーユーベーシックの販売も順調。既存店売上高は増収、粗利益率改善で増益
- ・セオリー事業：計画を下回り、若干の減益
- ・コントワー・デ・コトニエ事業：計画を下回り、若干の減益
- ・プリンセス タム・タム事業：計画通り、前年並み
- ・J Brand事業：計画を下回り、赤字幅は若干拡大

		2014年8月期	2015年8月期		単位：億円
		上期実績	上期実績	前年同期比	
グローバルブランド事業	売上収益	1,253	1,482	+18.3%	
	事業利益	92	123	+33.7%	
	(売上比)	7.4%	8.3%	+0.9p	
	その他収益・費用	2	▲6	-	
	営業利益	95	117	+23.4%	
	(売上比)	7.6%	7.9%	+0.3p	

注：事業利益は、売上収益から売上原価、販管費を控除して算出しております。

14

次に、グローバルブランド事業についてご説明いたします。
 売上収益は1,482億円、前年同期比18.3%増、営業利益は117億円、同23.4%増と、増収増益を達成いたしました。これは売上、利益ともにほぼ計画どおりの水準となっております。

ジーユー事業については、計画を上回る増収増益を達成いたしました。上期では、キャンペーン商品のニット、スカート、冬物アウターの販売が好調だったことに加え、ジーユーベーシックといった新しいカテゴリーの商品の販売も順調に推移したことから、既存店売上高は増収、粗利益率も改善し増益となりました。上期では28店舗を出店、9店舗を閉店し、2月末の店舗数は295店舗となりました。

セオリー事業とコントワー・デ・コトニエ事業は、上期では計画を下回り、若干の減益、プリンセス タム・タム事業は計画通り前年並みの業績となっております。

J Brand事業は計画を下回り、赤字幅は若干拡大いたしました。

【連結】2015年2月末 B/S

単位：億円

	2014年2月末	2014年8月末	2015年2月末	前年同期末比
資産合計	9,703	9,923	12,762	+3,059
流動資産	6,899	7,170	9,770	+2,870
非流動資産	2,803	2,752	2,992	+188
負債	3,191	3,562	4,713	+1,521
資本合計	6,512	6,360	8,049	+1,537

15

次に2015年2月末のバランスシートの説明をさせていただきます。

資産合計は1兆2,762億円と、前年同期末比3,059億円増加いたしました。これは、流動資産が同2,870億円増加したこと、および非流動資産が同188億円増加したためです。

またこれにより、資本合計は、1,537億円増の8,049億円となっております。

詳細については、次のスライドでご説明いたします。

流動資産の増加 +2,870億円(6,899億円⇒9,770億円)

- ・現金及び現金同等物の増加：+1,039億円(3,588億円⇒4,628億円)
- ・たな卸資産の増加：+424億円(1,685億円⇒2,109億円)
 - 【国内UQ】+74億円 通年で販売する定番商品の増加、春物商品の早期投入
 - 【海外UQ】+301億円 2月末店舗数が前年同期末比で182店舗増加
 - 【グローバルブランド】+48億円 ジューシー、セオリー事業の事業拡大による在庫増
- ・デリバティブ金融資産：+755億円(資産1,115億円⇒1,870億円)
 - 2月末の為替レートが、国内ユニクロなどで保有する為替予約の平均レートより円安となり、その乖離が拡大したため、前年同期末に比べ755億円増加

非流動資産の増加 +188億円(2,803億円⇒2,992億円)

- ・有形固定資産の増加：+252億円(1,055億円⇒1,308億円)
 - 【海外UQ】前年同期末比182店舗の増加【グローバルブランド】同102店舗の増加
- ・無形資産の減少：▲138億円(918億円⇒780億円)
 - 【グローバルブランド】2014年8月期末にJ Brandの減損損失

まず、流動資産が2,870億円増加した要因をご説明いたします。
現金及び現金同等物は4,628億円と、前年同期末比で1,039億円増加いたしました。これは、ユニクロ事業をはじめとする各事業の営業キャッシュフローが増加したこと、および期末日が休業日だったことにより仕入債務が増加したためです。

たな卸資産は2,109億円と、前年同期末比424億円増加しております。
国内ユニクロ事業の2月末在庫は同74億円増加いたしました。
これは、通年で販売する定番商品を増やしたこと、春物商品の投入を早めた影響によります。海外ユニクロ事業の在庫は、同301億円増加いたしました。
これは、2月末の店舗数が、前年同期末比で182店舗増えたことによります。
グローバルブランド事業の在庫は、同48億円増加しております。これは、ジューシー事業、セオリー事業の事業拡大に伴って在庫が増加したことによります。

デリバティブ金融資産は、資産側で1,870億円となりました。国内ユニクロ事業などでは、長期的なヘッジ方針に従って為替予約を行っております。2月末の為替レートが、保有する為替予約の平均レートより円安となり、その乖離が拡大したため、前年同期末に比べ755億円増加いたしました。
なお、ヘッジ会計を適用していることから、損益への影響はありません。

非流動資産は、前年同期末比で188億円増加しております。
これは、海外ユニクロ事業、グローバルブランド事業で店舗数がそれぞれ同182店舗、102店舗増加したことにより有形固定資産が同252億円増加したことによります。一方で、無形資産は、2014年8月期末にJ Brandの減損損失を計上したことにより、138億円減少いたしました。

	2014年8月期 上期累計	2015年8月期 上期累計	コメント
営業活動によるキャッシュ・フロー	+1,029	+2,240	
税引前四半期利益	+1,105	+1,636	ユニクロ事業をはじめとする各事業の利益貢献
減価償却費及びその他の償却費	+139	+177	
運転資金の増減額	▲10	+793	期末日が休日のため、仕入債務が増加 棚卸資産が8月末に比べて減少
法人税等の支払い・還付	▲190	▲264	
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲244	▲740	
定期預金の増減額(▲は増加)	-	▲458	一時的に3ヶ月超の定期預金が増加
有形固定資産の取得による支出	▲192	▲216	出店拡大に伴う投資
無形資産の取得による支出	▲29	▲34	システム投資など
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲206	▲223	
配当金の支払額	▲151	▲152	期末配当金1株あたり150円の支払
現金及び現金同等物に係る換算差額	43	211	
現金及び現金同等物の増加額	621	1,488	
現金及び現金同等物期首残高	2,967	3,140	
現金及び現金同等物期末残高	3,588	4,628	

次に、キャッシュ・フローについてご説明いたします。

営業活動によるキャッシュ・フローは、2,240億円の収入となりました。ユニクロ事業をはじめとする各事業の利益貢献1,636億円と、収入が増加したことに加え、運転資金の収入が793億円の増加となりました。これは、期末日が休日だったことにより、仕入債務が増加したこと、および棚卸資産が8月末に比べて減少したためです。

投資活動によるキャッシュ・フローは740億円の支出となりました。支出の主な内訳としては、定期預金で458億円、有形固定資産の取得で216億円、システム投資などによる無形資産の取得で34億円となっております。一時的に3ヶ月超の定期預金が増加したため、投資活動による支出は昨年に比べ大幅に増加いたしました。この資金458億円は実質的には流動性が高い資金と言えます。

なお、連結の設備投資額は306億円、内訳としては、国内ユニクロ事業で52億円、海外ユニクロ事業で174億円、グローバルブランド事業で43億円、システム投資などで34億円となっております。

財務活動によるキャッシュ・フローは、223億円の支出となりました。主な内訳としては、配当金の支払額152億円の支出となっております。

以上の結果、2015年2月末における現金及び現金同等物の期末残高は4,628億円となりました。

通期業績予想を上方修正

売上収益 : 1兆6,500億円 500億円の増額修正
 営業利益 : 2,000億円 200億円の増額修正

・金融損益は若干の円高を想定、通期で約115億円を見込む
 (2015年8月末 1\$ = 約118円、1€ = 約132円を前提)

単位: 億円

	2014年8月期 通期実績	2015年8月期 直近予想 (1/8時点)		2015年8月期 修正予想 (4/9時点)	
			前期比		前期比
売上収益 (売上比)	13,829 100.0%	16,000 100.0%	+15.7%	16,500 100.0%	+19.3%
営業利益 (売上比)	1,304 9.4%	1,800 11.3%	+38.0% +1.9p	2,000 12.1%	+53.4% +2.7p
税引前利益 (売上比)	1,354 9.8%	1,800 11.3%	+32.9% +1.5p	2,115 12.8%	+56.1% +3.0p
当期利益 (売上比)	793 5.7%	1,080 6.8%	+36.1% +1.1p	1,300 7.9%	+63.9% +2.2p
親会社の所有者に 帰属する当期利益 (売上比)	745 5.4%	1,000 6.3%	+34.1% +0.9p	1,200 7.3%	+61.0% +1.9p

18

続いて、2015年8月期の通期業績予想について、ご説明いたします。

通期の売上収益は期初予想より500億円増額修正し、1兆6,500億円、
 営業利益は200億円増額修正し、2,000億円といたしました。

これは上期で、国内ユニクロ事業、海外ユニクロ事業が上ブレしたこと、
 円安による為替差益が発生したことによります。

金融損益については、2月末の為替が1ドル約119円、1ユーロ約134円
 だったことから、上期には127億円の為替差益を計上しておりますが、
 2015年8月末の為替レートは2月末と比較して若干の円高を想定し、
 1ドル約118円、1ユーロ約132円の前提で、
 通期の金融損益は約115億円を予想しております。

なお、上期の実績を踏まえ、非支配持分利益と、税金の予想を修正し、
 親会社の所有者に帰属する当期利益の予想を1,200億円といたしました。

上期の営業利益は予想に対し300億円の上ブレも、
通期の営業利益は200億円の上方修正に留まる

期初予想からの下期営業利益予想の変更点

【国内ユニクロ事業】: 若干の減額修正

想定以上に円安が進んだことによる原価のコストアップ

【海外ユニクロ事業】: 若干の減額修正

米国事業の業績の下ブレ

【グローバルブランド】: 若干の減額修正

J Brand事業などの業績の下ブレ

【その他および調整額】: 減額修正

若干の円高を見込んでいるため、為替差損を予想
FR単体で人件費などのコスト増を見込む

上期の営業利益は期初予想に対し300億円の上ブレとなっておりますが、
通期の営業利益の予想は200億円の上方修正に留まっております。

まず国内ユニクロ事業の下期の予想ですが、想定以上に円安が進んだこと
による原価のコストアップで、期初予想より若干減額修正を行っております。

海外ユニクロ事業については、下期では、米国の業績の下ブレを
見込み、若干の減額修正を行っております。

グローバルブランド事業については、J Brand事業などの業績の下ブレを
見込み、若干の減額修正を行っております。

これに加え、その他および調整額が期初予想よりもマイナス幅が増額する
ことを見込んでおります。

上期では、その他および調整額が、プラス59億円となりましたが、これは
主に、円安により立替金の決済に係わる為替差益が発生したためです。
下期では、上期末に対して、若干の円高を見込んでいるため、為替差損を
予想し、また、ファーストリテイリング単体で、人件費などのコスト増を
見込み、期初予想よりも減額修正を行っております。

国内ユニクロ事業：増収増益

- ・通期の既存店売上高は約5.5%増、下期では約1.5%増を予想
- ・原価のコストアップなどにより、下期の営業利益は前年同期比で横ばい

海外ユニクロ事業：大幅な増収増益

- ・グレーターチャイナ、韓国の業績は引き続き好調なトレンドを維持、大幅な増収増益
- ・米国の赤字幅は拡大する見込み
- ・通期の海外ユニクロ事業の出店数は200店舗を予定

グローバルブランド事業：増収増益

- ・ジュー事業は、通期で増収増益、営業利益率も改善を見込む
- ・セオリー事業など、その他のブランドは前年並みの業績

海外ユニクロ事業 出店予想		グローバルブランド 出店予想	
グレーターチャイナ	約100店舗	GU事業	約50店舗
韓国	約30店舗	セオリー事業	約45店舗
東南アジア・オセアニア地区	約45店舗	CDC	約5店舗
米国	約20店舗	合計	約100店舗
欧州	約5店舗		
合計	約200店舗		

20

次に、各事業の通期予想を申し上げます。

通期の国内ユニクロ事業は増収増益を見込んでおります。通期の既存店売上高は約5.5%増、下期のみは、約1.5%増を予想しております。ただし、下期は原価のコストアップなどにより粗利益率は前年よりも低下する見込みとなっており、下期のみの営業利益は前年同期比で横ばいに留まる見込みです。

海外ユニクロ事業は大幅な増収増益を見込んでおります。グレーターチャイナ、韓国の業績は引き続き好調なトレンドを維持し、大幅な増収増益を予想しておりますが、米国の赤字幅は拡大する見込みです。通期の海外ユニクロ事業全体の出店数は200店舗を予定しております。

グローバルブランド事業は増収増益を見込んでおります。ジュー事業は、通期で増収増益を見込み、営業利益率も改善する見込みです。セオリー事業などその他のブランドは前年並みの業績を見込んでおります。

2015年8月期 配当金予想

中間配当金 175円を予定
年間配当金 350円を予想

	1株当たり配当金		
	中間	期末	通期
2013年8月期	140円	150円	290円
2014年8月期	150円	150円	300円
2015年8月期(1/8予想)	160円	160円	320円
2015年8月期(修正予想)※	175円	175円	350円
増配額	+25円	+25円	+50円

※ 2015年8月期の中間配当については4月9日開催の取締役会にて決議しております。
 なお、業績や資金需要に大きな変動が生じた場合、期末配当金額を変更することがあります。

次に、2015年8月期の1株当たり配当金についてご説明いたします。
 本日の取締役会にて、中間配当金を、1株当たり175円と決議いたしました。
 これは前年に比べ、25円の増配となっております。

また、期末配当金についても1株当たり175円を予想しております。
 この結果、年間の配当金は1株当たり350円、50円の増配を
 予想しております。

国内ユニクロ事業の価格戦略

2015年秋冬物商品
約2割の品番数で価格の見直し
全体として平均1割程度の単価アップを予想

■ 値上げの要因

✓ 円安によるコストアップ

長期的な為替予約を行っているも、社内調達レートが徐々に円安へ

✓ 原材料の長期的な上昇

メリノウール、カシミア、デニムなど、品質にこだわった素材を調達
長期的な調達価格は、上昇傾向

✓ 生産国における人件費上昇

中国などの生産国での人件費は、年々上昇傾向、生産コストを圧迫

今まで以上に、付加価値を高めた商品をお値打ち価格で提供し、お客様の期待にお応えしていきたい

22

最後に、補足情報として参考資料の22ページをご覧ください。
この下期から一部に影響が出始める国内ユニクロ事業の価格戦略について、ご説明いたします。

2015年秋冬物商品の約2割の品番数において、価格を上げる商品が出る見込みです。値上げの要因としては、円安によるコストアップ、原材料の長期的な上昇、生産国における人件費上昇があります。

2014年秋冬商品では、平均5%の値上げを行いました。円安がさらに進んだことにより、コストを吸収することが出来ず、一部の商品の価格の見直しとなっております。今回の値上げは、値上げしない商品も含んだ全体で、平均1割程度の単価アップを予想しております。

まず円安によるコストアップですが、弊社では、長期的な為替予約を行っておりますが、社内調達レートも徐々に円安が進み、コストアップの要因となっております。

原材料価格の長期的な上昇につきましては、ユニクロではメリノウールや、カシミア、デニムなど、品質にこだわった素材を調達しているため、長期的な調達価格は、上昇傾向にあります。

また、中国などの生産国における人件費は、年々上昇傾向が続いており、生産コストを圧迫しております。

このようなコストアップの中で、企業努力を続けてまいりましたが、継続的に高い品質と付加価値ある商品を提供させて頂くために、値上げに踏み切らざるを得ないと判断いたしました。

今まで以上に、付加価値を高めた商品をお値打ち価格で提供することで、お客様の期待にお応えしていきたいと考えています。

以上で私からの説明を終わります。ありがとうございました。

連結対象事業別出退店 実績

【単位：店舗】	14年8月 期末	上期実績 (2015/2末)			
		出店	退店	純増	期末
ユニクロ事業合計	1,485	119	46	+73	1,558
国内ユニクロ事業※	852	27	37	▲10	842
直営店	831	20	37	▲17	814
大型店	199	10	6	+4	203
標準店等	632	10	31	▲21	611
FC	21	7	0	+7	28
海外ユニクロ事業:	633	92	9	+83	716
中国	306	40	6	+34	340
香港	22	3	1	+2	24
台湾	46	5	0	+5	51
韓国	133	8	2	+6	139
シンガポール	18	4	0	+4	22
マレーシア	21	3	0	+3	24
タイ	20	1	0	+1	21
フィリピン	16	6	0	+6	22
インドネシア	4	2	0	+2	6
オーストラリア	1	3	0	+3	4
米国	25	14	0	+14	39
英国	10	0	0	0	10
フランス	6	2	0	+2	8
ロシア	4	1	0	+1	5
ドイツ	1	0	0	0	1
グローバルブランド事業	1,268	69	23	+46	1,314
ジーユー事業	276	28	9	+19	295
セオリー事業※	460	36	7	+29	489
コントワー・デ・コトニエ事業※	374	5	4	+1	375
プリンセス タム・タム事業※	152	0	1	▲1	151
J Brand	6	0	2	▲2	4
総合計	2,753	188	69	+119	2,872

注: ミーナ事業、グラミンユニクロ事業は含まず
※フランチャイズ店は含む

連結対象事業別出退店 予想

【単位：店舗】	14年8月 期末	2015年8月期 予想			
		出店	退店	純増減	期末
ユニクロ事業合計	1,485	247	70	+177	1,662
国内ユニクロ事業：	852	47	55	▲8	844
直営店	831	37	54	▲17	814
大型店	199	16	5	+11	210
標準店等	632	21	49	▲28	604
FC	21	10	1	+9	30
海外ユニクロ事業	633	200	15	+185	818
グローバルブランド事業 ※	1,268	100	30	+70	1,338
総 合 計	2,753	347	100	+247	3,000

注：ミーナ事業、グラミンユニクロ事業は含まず ※フランチャイズ店は含む

為替レート、設備投資、減価償却費

適用為替レート

単位：円

	1USD	1EUR	1GBP	1RMB	100KRW
2015年8月期 第2四半期(6ヶ月平均)	113.3	140.2	179.3	18.3	10.6
2014年8月期 第2四半期(6ヶ月平均)	100.9	136.9	163.2	16.6	9.4
2015年8月期 通期予想レート(4/9時点)	118.0	132.0	185.5	19.2	10.7
2014年8月期 通期実績(12ヶ月平均)	101.5	138.2	167.5	16.5	9.6

設備投資・減価償却費

単位：億円

	設備投資	減価償却費
2015年8月期 第2四半期実績(6ヶ月累計)	306	177
2014年8月期 第2四半期実績(6ヶ月累計)	265	139
2015年8月期 通期予想(12ヶ月累計)	617	321
2014年8月期 通期実績(12ヶ月累計)	588	308

設備投資内訳

2014年8月期 上期実績：国内ユニクロ 34億円、海外ユニクロ 161億円、グローバルブランド事業 38億円、システム他 30億円

2015年8月期 上期実績：国内ユニクロ 52億円、海外ユニクロ 174億円、グローバルブランド事業 43億円、システム他 34億円

2015年8月期 通期予想：国内ユニクロ 55億円、海外ユニクロ 312億円、グローバルブランド事業 106億円、システム他 144億円